



分散登校が始まり、待ちに待った新学期がスタートしました！今後、新型コロナウイルスによる第2波などが起きないことを心から願っています。

そして、これからも図書館をどんどん利用してほしいと感じています。

今月は海の大きくてかわいい動物……イルカの生態に迫りたいと思います。

イルカはショーをすることから、知能が発達しているイメージがありますが、実際はどうなのでしょう。『イルカの不思議 2時間で生まれかわる皮膚？アゴが耳？驚きの能力に迫る！』村山司著 誠文堂新光社 2015 を読むとわかります。

第1章は「イルカとはどんな生き物か」、第2章は「イルカの驚くべき能力」、第3章は「群れをつくるイルカ」、第4章は「賢いイルカ」、第5章は「イルカと話したい」の5章から構成されています。また、「イルカは水を飲むのか」など、気になるコラムもあります。基礎的な内容から研究で解明されたことまでイルカのことをよくわかります。次に水族館でイルカを見たとき、以前とイルカの見方が変わるかもしれません。

私がこの本を読んでいて印象に残ったことは、二つあります。

まず、イルカの視力ってどれくらいだと思いますか？種類によって視力の値が違うようですが、だいたい0.1くらいだそうです。ウサギやゾウなどの草食動物と同じくらいだそうです。イルカの中でも特に、視力が悪いのは0.02～0.03のアマゾンカワイルカです。濁っている河川にすんでいるアマゾンカワイルカは、ほとんど周りが見えないような環境で暮らしていたため、視力が退化したのだらうと考えられています。

第二に、人では考えられませんが、左右の脳半球が独立していることで、右脳が起きている時は左脳が寝ていて、左脳が起き始めると右脳が寝る、つまり常にどちらかの脳が起きている「半球睡眠」をイルカはしているのです。また、「半球睡眠」によりイルカは夢を見ないと考えられています。人は睡眠時、レム睡眠（眠りが浅く呼吸や血圧が起き、からだは動いたりする）とノンレム睡眠（深い眠りの状態で、呼吸や血圧も安定している）の2種類があります。夢は、脳全体が寝ているレム睡眠時に見ているとされ、もともと片方の脳が必ず起きているイルカにはこのレム睡眠がないとされているのです。

イルカは、たとえばカマイルカとセミイルカやダングラカマイルカとナガスクジラ、イルカとマグロのように違った仲間の群れをつくることもあるそうです。エサを共同で追い込んだり、エサをうまく分け合ったり、敵から逃げるときに協力し合うためだそうです。新型コロナウイルスに立ち向かうためにも、人間同士、ペットや動物に対しても、協力し尊重し合って生活を送ることが必須だと感じます。

